

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1398号 令和5年4月10日号

習近平の頭痛の種は、実はプーチン	本紙編集部.....	1
韓国民主労働組合総連盟に強制捜査が入った		2
中共「人民網」の韓国支局長は美女工作員		2
精神医療に「アニメセラピー」が導入される		3
韓国ソウル大学が中共支配下に陥っている		4
中共は気球から超音速ミサイルを発射か?		4
寄稿 知られざるアイヌ料理の文化	「兵庫通信」代表 村上 学.....	5

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
編集長/谷田 透

習近平の頭痛の種は、実はプーチン

本紙編集部

習近平がモスクワを訪問し、遅刻常習犯のプーチンが定時にお迎えするという特別待遇を世界に見せた。これで世界に、プーチンが習近平に頼みごとがあるからモスクワまで来てくれと懇願したことが明らかになった。

プーチンは情報戦でウクライナに負けており、国内でも世界大戦に発展したら大変だというムードが高まり、親衛隊のワグネルも崩壊寸前となって国軍がプーチンを睨みつけるようになり、経済悪化と共にロシアの栄光は地に墮ちるようになってきた。兵器や弾薬の不足もひどく、二日間で片付くと思って始めたウクライナ戦争は、ロシアが自分の首を絞める結果になっている。

習近平には軍事支援を盛んに要請しているが、世界の孤児になりたくない習近平は色良い返事をしてこなかった。我慢できなくなったプーチンは、それならば最終兵器を使うことになって東西の核戦争に突入するしかないと言近平に伝えたそうだ。慌てた習近平は、軍事技術の移転を餌にして、イラ



プーチンがベラルーシに配備した戦術核ミサイルをウクライナに撃てば、ドイツとポーランドはベラルーシを総攻撃してしまう。するとNATOは、軍事支援している中共も同罪だとして世界中に経済制裁と金融封鎖を呼びかけるだろう。そうなれば中共は毛沢東時代に逆行してしまう。習近平にとって、毛沢東時代に逆行することは自身が暗殺の恐怖で眠れなくなることを意味する。国民が餓死しても、共産党が生き残るなら戦争するが、今回は共産党が餓死し窒息死する番だ。

習近平はプーチンに「軟着陸の後ろ盾にな

る」ことを約束し、決して核戦争に突入して世界大戦を惹き起こさないようにお願いする意味で、プーチンの懇願に「とりあえずモスクワに飛んで行く」という誠意を見せたのである。

ロシア人は大雑把で忘れっぽい民族性だが、義理堅く感激屋が多いのも特徴だ。それを承知の習近平は、ロシア世論を味方につける作戦を優先させた。ロシアが困った時に、取り敢えずモスクワまで飛んできてくれたという習近平の誠意(芝居だが)は、ロシア人の琴線を震わせたことだろう。

習近平は「一带一路」でウクライナのヤヌコビッチやポロシエンコという大統領を続けて買収し、それが原因で右翼やマフィアが支持する愛国連合のゼレンスキーが台頭した責任を感じている。感じてはいるが、責任は取らない。北極同盟に加盟して、上海からヨーロッパまでフェリー航路を開く計画も、ロシアだけしか買収できなかった。北極に面していない中国が同盟に加盟できる理由も無いが、習近平の野望をプーチンが応援したことで北極に権益と責任を持つ同盟国からロシアが孤立することになった。国連安保理事会も同じ構図になっており、野望の塊である習近平と中共の役に立たないプーチンが「嫌われ者」として世界から日干しにされるかもしれない。

習近平は運の強い男だから今回も逃げ切れずとも知れないが、運が尽きつつあるプーチンと道連れでは不安で仕方ない。その不安を和らげるようにイランとサウジを握手させるという大芝居の幕を開けたものの、足払いをしてやろうと考えているイギリスによって、計画が壊れる危険性もある。いまや習近平の頭痛の種はプーチンだということは、既に世界の常識となっている。

韓国民主労働組合総連盟に強制捜査が入った

韓国で最大の「北朝鮮工作機関」と呼ばれている民主労働組合総連盟(民主労総)が、北朝鮮の工作の温床となっているとして、尹錫悦政権がメスを入れた。二月には民主労総の本部など十カ所に自宅捜査が入り(写真)、幹部など四人が北朝鮮から「反保守活動」の指令を受けていたことが判明して逮捕された。二〇一七年以降だけでも、カンボジアやベトナムで接触し指示を受けていたと公表された。韓国最大の労働組合が北朝鮮の犬だったと判明し、若者の労働離れに一層の拍車がかかっている。

韓国国家情報院の発表では、済州島の革新系政党は北朝鮮から「労働掌握」という指令を受けていたとのこと。指令では「労組の団結力と戦闘力を大衆牽引に利用せよ」とあったそうで、一気に北朝鮮が対南工作の土台にしていた労組や政党が洗われそうだ。

一九九〇年代に北朝鮮からは、韓国の大学生は左派運動が没落してきたので労組に狙いを替えると伝えられていた。労働者の待遇改善や権利保護などは横に置いて、政治闘争に明け暮れる朴正熙時代の再現を命じられていたのである。そんな中で民主労総では「統一部」という部署が設置され、民間のチュチュエ団体(親北朝鮮工作団体)が頻繁に出入りするようになった。それからは「アメリカ軍基地撤廃運動」「米韓安保同盟破棄運動」「対日懲罰外交運動」などが続けられ、平壤には「徴用工の像」を設置



すると発表するまでになった。一般国民からも、労組が政治に介入することの是非が問われ始め、「南朝鮮解放」を掲げる金日成以来の北朝鮮政策を実現するために運動しているのかと疑問の声が出始めた。危険組織の取締りという政府の基本姿勢を示すチャンスと見た尹錫悦政権では、前政権との違いを示すタイミングを計っていた。

二〇一四年には、北朝鮮と連携して韓国転覆を企てたとして「統合進歩党」が強制解散させられているが、民主労総が彼らの後継組織であったことは疑いの余地がなさそうだ。日本国内およびアメリカ国内にある北朝鮮系組織を通じて、韓国の企業や労組に影響力を行使する方法が今までは続いてきたが、それも現政権になってからはルートを切断する方向になってきた。日本国内の在日に呼びかける「韓国の軍事政権時代の焼き直し」という尹錫悦政権に対する反対運動は、相互に国内のアンチ運動を盛り上げるために尖った団体に暴れさせようとする局面にきている。「日韓和解」となれば、アンチ運動は弾圧の対象になるという危機感は大い。

「日本は腹の立つ嫌いな国だが、片目を瞑って握手するのが韓国の強さだ」という表現を使う若者たちもネットで勢力を強めてきた。同様の波長が日韓で高まれば、北朝鮮の野望、ひいては中共はじめ共産主義者の妄想を叩き潰せる流れが生まれるだろう。

中共「人民網」の韓国支局長は美女工作員

人民日報のネット版が「人民網」だが、十年前から支局長をしている周玉波(次頁写真)は「ピープルドットコム・コリア」の代表も

務めている。美人で評判だが、自分で取材などはせず、もっぱら政治家や親中派の企業トップと飲食するだけが仕事らしい。韓国は

中共ネットにどれだけだけの自由を保証しているのか知らないが、彼女と同等の自由が韓国メディアの中国支局長に保証されているかどうかは聞かなくても分かる。

彼女は北京の対外経済貿易大学の韓国語部門を卒業しているそうだが、全く訛の無い会話が当初から出来ていたそう。余程の秀才だと思いが、メディアや取材の勉強をしたという記録が無いところが中国的面白い。韓国語さえ話せて美人なら、韓国のバカ政治家はすぐに食いつくだろうと見られているところは、日本も笑えない。

現在の尹錫悦政権になってから、中共のメディアを通じた政治工作を洗っていたら彼女の不審な行動のあれこれが出てきたそう。それを以前から警告していた保守系メディアはネットを通じて一斉に報道し、彼女を追放せよと運動し始めた。ところが、何か疚しいことがある政治家らは無視を決



周玉波

め込んでしまった。中共を怒らせることが怖いのではなく、自分と彼女の内緒話が暴露されることが怖いらしい。

似たような話で、「共に民主党」の前大統領候補だった李在明が京畿道の大規模不動産開発に絡んで収賄や脱税をしていた事件で逮捕されたが、与野党混ざったソウル市の政治家たちが彼を必死で庇いだてし始めた。検察当局は、李在明がソウル市の政治家たちに自分を大統領候補に推薦させるために「実弾」をばら撒いていたことは知られていたが、貰っていた政治家たちが自分から登場してきたのは皮肉なことだと笑っている。李在明は賄賂リストを作っているが、当局は押収できていない。

そんなこんなで、韓国では、政治家は卑しい人格の代表だという図式が、またまたクローズアップされそう。

精神医療に「アニメセラピー」が導入される

イタリアでは、国内にある精神病院を次々に廃止している。精神医療の未来像を作り出すようにしている動きとして、世界が注目している。

そのイタリアの精神科医をしているパントー・フランチェスコ医師(写真)は、日本のアニメを活用したメンタルケアが有効だと証言する。「健康な人と病気の人に明確な境界線は存在しない」というのが彼の信念で、その気持ち



ちが日本のアニメに登場する千差万別のキャラクターに患者の気持ちを投影するという手法を生み出した。患者が自分の個性をアニメキャラクターに投影することが、自分を信じることに有効になってくる。アニメをエンタメとしてだけでなく、そこに自分と似たキャラクターを見つけ出せることが患者にとって役立

つそう。

彼は日本での臨床を基に「アニメ療法」という書籍(光文社新書)も出版しているが、患者が物語作品に感情移入し自己投影できる日本のアニメは最も優れていると分析している。

メンタルケアのサポートを医師に代わってAIが行なう時代も目前に来ており、患者に適正なアニメは何かという診断が急がれるようになってきた。

精神疾患は現代病だと言われているが、一般社会での比率は高くなり続けている。日本でも、国民の一割は程度は別にして精神疾患を患っているとされている。風邪ひきには風邪薬を飲むが、総合感冒薬は熱や喉の痛みなど様々な症状をやわらげる成分を混合しているだけで、決定的な原因消滅薬ではない

で「根本治療」が出来ていない。精神疾患も同様で、個別具体的な原因をピンポイントで治療する「外部的治療」より、アニメキャラクターに自己投影して「内部的自己免疫療法」を採用する方が効率的なことは確かだろう。

人間科学の分野においても、帝塚山大学の戸上良弘教授は「人は見慣れた視座でしか見えない」と分析しており、複数の視座から

立体的に見ることが出来れば人は発展的になると語っている。アニメはまさにピタリの素材であり、短時間で自分がないし得ない、またあり得ない状況を疑似体験する自己投影が可能だ。これは瞬間的に複眼的な視座を得る効率的な方法であることは疑いの余地が無い。

精神医療の未来は明るくなりつつあると、希望を持って語れそうだ。

韓国ソウル大学が中共支配下に陥っている

韓国のソウル大学と言えば、日本の東大と同じように最高学府と呼ばれる官僚輩出校である。そのソウル大学に「習近平資料室」が存在すると言っても、にわかには信じられないことだろう。

七年前に習近平が韓国を訪問した時、ソウル大学に多くの高価な図書を寄贈した。それを「習近平寄贈図書資料館」として大学内に設置していたが、驚くことに現在でも「習近平資料室」として運営されているというのだ。



二〇一五年十月に、朴槿恵政権が北朝鮮非核化と将来的な南北関係を築こうと中共に接近し、前年に習近平がソウル大学に約束していた貴重な図書の寄贈を受けることになった。ソウル大学の中央図書館二階に約三〇坪の特設コーナーを作ったのが最初で、その後は習近平を崇める施設として

拡充されている。習近平夫妻が坐った椅子二脚が宝物として展示されているが、図書は街の書店レベルのお粗末な内容らしい。

図書の貸し出しは民間人にも認められているが、二日間で一冊しか借り手が無いほど人気がないようだ。利用価値が無いから閉鎖せよとの声が上がったが、中共と韓国の関係が悪化すると困るという理由でソウル大学は放置したままだ。

昨年の国会で、教育委員からソウル大学の学長に「ソウル大学を建設した大統領の資料室は存在しないのに、韓国は属国だと国際的に侮辱した習近平の資料室が存在しているのは何故か」と問いつめられ、中韓友好の為と答えるのが精一杯だった。市民運動も始まっており、ソウル大学は態度を明らかにするよう迫られている。

中共は気球から超音速ミサイルを発射か？

アメリカで騒ぎになってから我が国でも騒ぎ始めたが、中国から飛んでくる気球(直径六〇m以上)は、二〇一三年から中共が開発を進めていたものだ。コストが安く済むのが最大の利点で、高度は二〇kmから一〇〇kmの高高度を人工衛星よりゆっくり飛ぶ。軍事情報の収集を第一任務にしているが、この高度では撃墜するのも難しいので、日米共に気づ

かない振りをしてきた。

だが二〇一八年に、この気球には撃墜された時に放射線物質をバラまく装置を取り付けたと言いつつ始め、アメ

リカも馬鹿にされて激怒していた。相変わらず日本は知らん顔だったが、



アメリカから撃墜される心配が無くなっ

からの中共は、気球から地上標的めがけて超音速ミサイルを発射する実験を始めた。同時に、アメリカの無人偵察機やドローンを墜落させるための電子妨害装置の実験も始めている。恐らく次にはコンピュータやネット空間を無力化させるための実験も始めるだろう。もうアメリカは防衛上の我慢の限界に至った。

中共が巨大気球を総合兵器として位置づ

けていることは確認され、低コストで積載量が飛躍的に多いという利点を宣伝して、新たに世界中に販売しようと考えていることも確認された。

これ以上中共の気球を見過ごすことは出来ない。紛争国の独裁者が世界平和を破壊する目的で、フル装備の中共気球を手に入れたらどうするのか。我々も視点を変える必要がある。

稿 寄

知られざるアイヌ料理の文化

「兵庫通信」代表 村上 学

アイヌ考古学の瀬川拓郎札幌大学教授によると、アイヌ料理の味付けは全て塩味だという。おまけに、その塩は交易によって本土から輸入していたものなのだ。料理を作る鍋や窯も本土から輸入したもので、食器に使う木製のお椀まで本土産だったそうだ。

すると、交易のために本土に輸出されていたものは何かという疑問だが、これは大陸の清朝満州地域との交易と同様に、アイヌ産品と呼ばれる毛皮や干物などが多かったようである。今では覚えていない人も少ないが、鮭を塩を使わずに鰹節のように堅く干したものは、江戸時代以前から大量に本土に輸入されていた。干した筋子や鯨の油かすも大量に輸入されていたが、滋養強壯の薬として重宝されていたという記録もある。



肉等の団子が多く、鮭のエラや頭を白子と混ぜて炊いた料理などもお馴染みであるが、江戸時代以降になると本土から和人の大規模な入植があり、食文化は一気に同化されている。現在では、それ以前のアイヌ料理なのか本土からの文化が混じり合っているからの料理なのか、判らなくなっているものも多い。

アイヌがいつ頃から本土や大陸と交易していたのかは諸説あるが、生活用品と食事の変化が文化の変化に繋がっているのは間違いないだろう。だが、アイヌの神を祭る風習は生き続けており、そこは分けて考えるべきだろう。アイヌには十二以上の部族があり、言語も微妙に違っていたことは明らかだが、言い伝えや掟の違いを真面目に検証することが明治時代には避けられていたことが長く影響していた。何しろ明治時代には、アイヌの事を「北海道旧土人」と呼んで差別していたのだから。政府が補助金を出して保護する対象だと規定していたのだ。近代の「同和政策」のスタートだったと言えなくもない。

江戸時代に北前船（絵）がアイヌ交易を爆発的に拡大したが、北前船の終点である上方（関西）では、アイヌ文化を吸収して自分流にアレンジして取り込んでいる。もう関西人は、発祥がアイヌ文化だったことすら気づいていないものも多い。関西人にとっては、美味いか便利とか優先順位が分かりやすいので、アイヌ発祥であろうが無かろうが気にもしない。

アイヌ料理は煮込み料理が多く、熊肉や鹿

人は食えることが生きてゆくことの基本であり、食べ物が変われば体も心も少しずつ変わるものである。何代かすれば、遺伝子さえ変わってくるだろう。壮大な大和人とアイヌの交わりを考えるきっかけとして、アイヌ料理を見てみるのも面白い。